

(京都府政記者クラブ, 京都市政記者クラブ, 京都経済記者クラブ, 関西プレスクラブ同時配布)

令和2年10月30日

『CONNECT⇄』～芸術・身体・デザインをひらく～の開催について

文化庁は、令和2年12月3日から12月20日まで、京都国立近代美術館ほかにおいて『CONNECT⇄』～芸術・身体・デザインをひらく～を開催いたします。

1. 概要

文化庁では、共生や文化の多様性について関心を深めることを目的とした取組「CONNECT⇄」を開催します。京都国立近代美術館ほか京都・岡崎公園一帯の文化施設が連携し、12月の「障害者週間」にあわせて、障害のある方が制作した作品の展示や、身体感覚をつかった作品鑑賞プログラム、岡崎地域をテーマにしたサウンドワークや動画配信などを実施します。また、昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、スペシャル鼎談の配信などオンライン上で参加できるプログラムも実施していきます。

この取組は、文化庁が2016年から4回にわたって国立新美術館で開催してきた「ここから展」を引き継ぐ事業として開催するものです。

2. 会期等

「CONNECT⇄」～芸術・身体・デザインをひらく～

会期：令和2年12月3日（木）～12月20日（日）

会場：京都国立近代美術館(京都市左京区岡崎円勝寺町26-1)ほか以下の施設
京都市京セラ美術館, ロームシアター京都, 京都市動物園, 京都府立図書館
京都市勧業館みやこめっせ(日図デザイン博物館), kokoka京都市国際交流会館

入場料：無料

URL：<https://connect-art.jp/>

3. 主催等

主催：文化庁, 京都国立近代美術館

共催：京都新聞

4. 問合せ先

「CONNECT⇄」事務局（京都新聞COM事業局内 担当：岩崎, 北岡, 西森）

電話：075-255-9757, FAX：075-255-9763

<担当> 文化庁地域文化創生本部 川村, 雲出
電話：075-330-6723

障害者週間から始まる、アートを通して共生・多様性について考える18日間

CONNECT ⇄

KYOTO 芸術 / 身体 / デザインをひらく

2020.12.3 THU. - 12.20 SUN.

会場_京都・岡崎公園

参加無料
FREE

京都国立近代美術館
京都市京セラ美術館
ロームシアター京都
京都市動物園
京都府立図書館
京都市勤業館みやこめっせ
kokoka京都市国際交流会館

文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業」

「CONNECT⇄」は障害のあるなしに関わらず、さまざまな感性・特性を持つ人たちが芸術や文化、歴史に気軽にアクセスし、さらに参加した人たち同士がつながり合い、気づきを与え合う機会となることを目指すプログラムです。美術館、劇場、図書館、動物園などが集まる京都の文化ゾーン、岡崎で、これらのユニークな施設がゆるやかにつながりながら、障害のある方が制作した作品の展示や、身体感覚をつかった作品鑑賞プログラム、岡崎地域をテーマにしたサウンドワークや動画配信など、オンライン・オフラインで誰もが参加できるプログラムを開催します。

ひとりでも、だれかと一緒とでも。足を運んで楽しむもよし、自宅から参加するもよし。「つながる」ことの意味があらためて問われている今だからこそ、ひらかれた文化施設のあり方、多様な人たちが共に生きる社会のかたちについて、みんなで一緒に考えてみませんか。

開催概要

会 期 2020年12月3日(木)～20日(日)

会 場 岡崎公園内各文化施設

主 催 文化庁、京都国立近代美術館

共 催 京都新聞

後 援 京都府、京都市、京都岡崎魅力づくり推進協議会、KBS京都、エフエム京都

特別協力 NHK京都放送局

協 力 京都市京セラ美術館、京都市動物園、京都府立図書館、ロームシアター京都、京都市勤業館みやこめっせ、kokoka京都市国際交流会館、日図デザイン博物館、一般社団法人 HAPS(Social Work / Art Conference)、富士通株式会社、山口情報芸術センター [YCAM]

w e b <https://connect-art.jp/>

開催趣旨

近年、「文化芸術基本法」、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」をはじめとして国内での制度整備が進み、障害の有無を越えてともに芸術文化活動に参加・享受する活動が全国的に広がりを見せています。文化庁では、共生や文化の多様性について関心を深めることを目的とした展覧会「ここから展」を2016年から4回にわたって国立新美術館（東京）で開催してまいりました。今年度はこの事業を京都で展開することといたしました。京都国立近代美術館がハブとなって、京都・岡崎地区にある府立や市立のミュージアムや劇場、図書館等が連携して、あらたな試み「CONNECT⇄」をスタートします。12月の「障害者週間」（12月3日～9日）にあわせて展示や参加型イベントなど多彩なプログラムを組んでいます。

今回のコンセプトは「ひらく」。障害者による芸術活動、また障害の有無を越えて共に芸術、文化、歴史を楽しむ活動について、「芸術」「身体」「デザイン」の3つの切り口から紹介します。京都の文化集積ゾーン・岡崎地区に立地するさまざまな文化施設がゆるやかに繋がりを持つことで、共生社会実現のための具体的な方策等について立場の違いを越えてともに考え、共通課題の洗い出しや取組みの更なる広がりが生まれることを目指します。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、文化施設へのアクセスや、文化芸術を介した人と人の関わり合いについて、新たな可能性を模索することが急務となってきています。本事業では当初、作品をふれて楽しむなど五感をつかった鑑賞ワークショップや特別支援学校の子どもたちとの特別プログラム等を企画していました。しかしコロナ禍において物理的な接触や密を避けるという観点から、いくつかのプログラムは実施を見送らざるを得ない状況となりました。こうした情勢を踏まえ、今年は「Online(オンライン：離れていてもつながる)」、「Offline(オフライン：集まってつながる)」、「Connect(コネクト：双方向につながる)」の3つの方法から、各施設でのプログラムを実施することといたしました。2020年度の「CONNECT⇄」が、人と人、人と文化が「つながる」ことの意義とその方策について、障害のある当事者、文化施設のスタッフ、そしてアーティストらが共に考え、模索する最初の一步になることを期待します。

これまでの歩み

「CONNECT⇄」は過去に国立新美術館（東京）で開催された文化庁主催の展覧会「ここから展」の後続事業です。「ここから展」は2016年秋に、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」にあわせて、障害者のアートや障害者の支援を目指したデザインに関する展覧会としてはじめて開かれました。それ以降、共生社会や文化の多様性について関心を深めることを目標に掲げ、4回にわたって開催を続けてきました。今年度は、開催地を京都に移し、「CONNECT⇄」として実施します。

2016 ここから—アート・デザイン・障害を考える3日間(会場：国立新美術館)

2017 ここから2—障害・感覚・共生を考える8日間(会場：国立新美術館)

2018 ここから3—障害・年齢・共生を考える5日間(会場：国立新美術館)

2019 ここから4—障害・表現・共生を考える5日間(会場：国立新美術館)

2020 「CONNECT⇄」～芸術・身体・デザインをひらく～(会場：京都・岡崎公園)

※「ここから展」についての詳細は「ここから展」HP(<https://www.bunka.go.jp/kokokara-ten/>)をご覧ください

CONNECT⇄ スペシャル鼎談

鷲田清一 × 青木淳 × 柳原正樹

会場 公式 web サイトにて公開(事前収録)

期間 12月3日～20日

「共生」の時代における文化施設のあり方をテーマに、哲学者の鷲田清一さん、京都市京セラ美術館館長で建築家の青木淳さんをお迎えして、京都国立近代美術館館長・柳原正樹さんの進行による鼎談を行います。事前収録した動画を、公式 web サイトで全会期中配信します。



京都市京セラ美術館 本館中央ホール (撮影 来田 猛)

京都国立近代美術館

インフォメーション機能を備えた ブースの設置

会場 京都国立近代美術館1階ロビー

期間 12月3日～20日

京都国立近代美術館1階ロビーに、「CONNECT⇄」のインフォメーション・センターが登場。会期中は映像コンテンツなどをいつでも、だれでも楽しむことができるほか、「CONNECT⇄」での実施プログラムを一堂に知ることができるような場所となります。

※12月7日、14日は休館日



提供：京都国立近代美術館

「感覚をひらく」事業での取り組みの紹介展示

会場 京都国立近代美術館1階ロビー

期間 12月8日～20日

京都国立近代美術館では、2017年度よりみえない・みえにくい人と協働し、障害の有無をこえてともに作品鑑賞をたのしむ「感覚をひらく」事業を行っています。「CONNECT⇄」会期中は、本事業のこれまでの取り組みの成果や、2020年度よりアーティスト、視覚障害のある方、キュレーターの三者協働で進めている鑑賞プログラム開発事業「ABCプロジェクト」の成果を展示します。



提供：京都国立近代美術館

身体感覚をつかった作品体験 「ねじれの巡礼」

会場 京都国立近代美術館1階ロビーおよびオンライン

期間 (美術館での展示)12月8日～2021年3月頃

(オンラインコンテンツ)12月3日～公開

心と身体、発達のリハビリテーション、精神病理学の領域にかかわりながら作品制作、研究活動を展開してきたアーティスト・大崎晴地による、オンライン(web上)およびオフライン(美術館)での展示。離れた状態でいかに人と人が繋がるのかをテーマとして、web上での作品の公開と、美術館ロビー空間での展示を予定しています。



作家提供

YCAM との共同開発によるワークショップ

「音景クルーズ for CONNECT⇄」

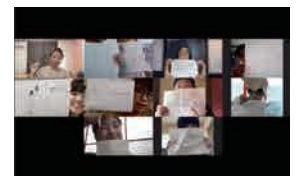
(企画協力 山口情報芸術センター[YCAM])

会場 オンライン

日程 12月12日 13時～16時

山口情報芸術センター[YCAM]とアーティスト・細井美裕、京都国立近代美術館の共同開発によるオンラインワークショップ。スマートフォンなどのデバイスとビデオ会議システム(Zoom)を用いて、音から空間を想像してみます。参加者は身の回りの音を収録してお互いに聞かせ合い、その音から想像した景色やイメージを紙に描いて共有し意見を交換します。

※事前申込制・詳細はwebサイトにて



写真提供：代官山ティーンズ・クリエイティブ

京都市京セラ美術館

三人のガラス・リボン

(企画協力 一般社団法人 HAPS (Social Work/Art Conference)
協力 中川ケミカル)

会場 京都市京セラ美術館 ガラス・リボン

期間 12月3日～20日

東京や京都で障害のある人が集うアトリエ活動に参加する3人は、それぞれの生活の中で出会ったある人やモノをきっかけに、描くことに夢中になりました。軽快でユーモアを感じさせる3人の作品世界を、透明感ある軽やかなデザインが特徴のファサード「ガラス・リボン」で紹介

します。
デザイン 菊地敦己



提供：京都市京セラ美術館

ロームシアター京都

演劇ワークショップ「岡崎地域をガイドする」

会場 ロームシアター京都 会議室2(※一部オンライン)

期間 11月21・22日 各13時～15時(全2回)

初心者・未経験者を対象にオリジナルの戯曲を創作するワークショップを実施します。作家・演出家 穴迫信一さんを講師に迎え、参加者にとっての岡崎の思い出やお気に入りの場所を散策し、その後、戯曲を書き、発表します。作成した戯曲は音声や文字として「CONNECT⇒」のwebサイトで会期中に配信を開始します。

*手話通訳、UDトークによる情報保障あり

※事前申込制・申込締切11月10日

京都市勧業館みやこめっせ(日図デザイン博物館)

第26回京都とっておきの芸術祭

(主催 京都障害者芸術祭実行委員会事務局)

会場 日図デザイン博物館

期間 12月10日～13日

京都の障害のある方が個性と才能を発揮する場、障害のある方ない方の交流の場として長きにわたって親しまれてきた、障害のある方を対象にした公募展です。「絵画」「陶芸」「写真」「書」「俳句」「川柳」「諸工芸」の7部門で京都市府在住の障害のある方から作品公募を行い、全応募作品を展示します(昨年747点)。なお、今年度は日図デザイン博物館の展示の他、オンライン上でも展覧会が開催されます。

美術館のどうぶつ園

(企画協力 一般社団法人 HAPS (Social Work/Art Conference)、菊地敦己)

会場 京都市京セラ美術館 エントランス周辺

期間 12月3日～20日

京都市京セラ美術館の隣には京都市動物園がありますが、美術館の中にももう一つの“どうぶつ園”が開館します。展示するのは、映像作家 浦崎力が、障害者支援施設みずのき内の収蔵庫で動物の絵画と出会ったことをきっかけに制作した映像作品です。みずのき絵画教室で生まれた作品の中から動物を描いた作品を選び、それらのイメージを用いたアニメーションで動物園をつくり出します。



提供：京都市京セラ美術館

京都市動物園

Antenna(アンテナ)で感じる

動物たちのこえ・いろ・かたち

(企画協力 富士通株式会社)

会場 オンライン

日程 12月5日 13時～14時半/15時～16時半

京都市動物園のさまざまな動物の声や、動物園に特有の音を、アンテナを使って感じてみるオンラインワークショップ。障害の有無に関わらず、アンテナを使うことで「音」を光や振動によって認識する経験をあじわう機会とします。

*文字支援あり

※事前申込制・詳細はwebサイトにて



提供：Antenna (富士通株式会社)

第26回京都とっておきの芸術祭

出品者紹介映像の配信

(企画協力 きょうと障害者文化芸術推進機構)

会場 オンライン

「第26回京都とっておきの芸術祭」の出品作家である米田祐二さん、川村章夫さんについて、制作風景やアトリエの様子、インタビュー等を収録した紹介映像をwebサイト上で公開します。

京都府立図書館

京都盲啞院の教材・教具の資料展示

京都大学との連携企画

「ないをたのしむ展 - ひねくれ編 -」

会場 京都府立図書館 2階ナレッジベース

期間 12月3日～20日

日本初の盲聾学校である京都盲啞院で学んだ子どもたちのための教材・教具類のレプリカを展示します。また京都大学と連携し、「ないをたのしむ展-ひねくれ編-」として、さまざまな感覚で楽しめる

展示も同時開催。さらに、同館にゆかりのある竹久夢二の挿絵本から、どなたでも楽しめるオリジナル「ぬり絵」も公開します。



提供：京都府立図書館

共通プログラム

1 身体感覚で楽しむプログラム

「KYOTO AQUATOPE」(協力 無鄰菴)

会場 岡崎公園周辺のカフェ、ショップおよびオンライン

期間 12月3日～20日

フィールドレコーディングを行い、作品制作を視覚や聴覚から風景を知覚する方法を探るアーティスト・上村洋一によるサウンド・プロジェクト。岡崎界隈を流れる琵琶湖疏水の音を採取し、京都と琵琶湖がつくってきた音の生態系をとおして新しいエコロジーを探ります。

(webにて) web サイトを通して聞いている時刻と同じ時刻にレコーディングした音を聞くことができます。

(岡崎公園にて) サウンドワークを疏水近隣のカフェ・ショップでBGMとして流します。



作家提供

3 「視る。を聞く。」

音でたのしむコンテンツ

会場 オンライン

期間 12月3日～20日

京都国立近代美術館ニュースレター「視る」に連載された岡崎公園の文化や歴史に関するリレーコラムを、執筆者自らが朗読した“声”でお届けします。

kokoka京都市国際交流会館

こねこねコネクトつながる世界

CONNECT⇔ 天才アート KYOTO

(企画協力 天才アートKYOTO(特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構))

会場 kokoka京都市国際交流会館

期間 12月9日～13日

天才アート KYOTO は、障害のあるアーティストたちが活動に打ち込める場を恒常的に確保し、展覧会等のプロデュース等を行ってきました。本展では当機構登録作家による作品を、京都市国際交流会館所蔵の京都市各姉妹都市・パートナーシティの紹介パネル・工芸品等と共に展示をし、いかなる状況下においても決して途切れることなく脈々と流れる、人々の豊かな想像力が「つながる世界」を紹介します。

岡崎公園を舞台に文化施設へのアクセシビリティ向上を目指すスペシャルコンテンツ

2 知る人ぞ知る！京都岡崎公園の魅力

～手話と声をつかって、スタッフとめぐる案内動画～

会場 オンライン

(動画は京都国立近代美術館、京都市京セラ美術館、ロームシアター京都、京都府立図書館、京都市動物園で撮影)

期間 12月3日～20日

障害のある方にも継続的に岡崎公園に足を運んでもらえることを目指し、岡崎の各施設に関わるスタッフが出演し、手話/字幕/音声を交えながら施設を紹介する動画を制作し、web サイトで公開します。監修者は「手話マップ」主宰の木下知威さん。



提供：京都国立近代美術館

4 文化施設へのアクセシビリティを考える勉強会・公開シンポジウム

「文化施設へのアクセシビリティを考える」をテーマに、岡崎の各施設のスタッフが参加しての勉強会や、障害のある当事者およびインクルーシブデザインの専門家等を交えたオンラインでの公開シンポジウムを実施予定です。

※詳細はweb サイトにて

5 岡崎公園で ミュージアムショップめぐり

期間 12月3日～20日

「CONNECT⇒」会期中、岡崎公園内のミュージアムショップにて、障害者施設や作業所で作られたグッズ・製品等を販売します。

参加店舗(予定)

- ・アールプリュ(京都国立近代美術館)
- ・アートレクタングル京都(京都市京セラ美術館)
- ・京都伝統産業ミュージアムショップ(みやこめッセ)

ほか



文化庁委託事業
「令和2年度障害者による
文化芸術活動推進事業」



お問い合わせ ※広報用画像については、事務局へお問い合わせください

「CONNECT⇒」事務局(京都新聞 COM)

〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都新聞 COM 事業局内

TEL 075-255-9757(受付時間：平日9時30分～17時30分)

FAX 075-255-9763

MAIL connect-art@mb.kyoto-np.co.jp

担当 岩崎、北岡、西森、林